

「みやぎの将来ビジョンタウンミーティング県南」の記録

日 時	平成18年9月1日(金) 13:30~15:30
場 所	柴田町槻木 柴田町生涯学習センター ホール
参加者	198名

<<概要>>

1 開会

2 知事講演「みやぎの将来像について」(宮城県知事 村井嘉浩)

- ・ 本日は多数のみなさんにお集まり頂き、大変ありがとうございます。
- ・ 県ではこれまでも、10年単位の中長期計画を策定してきました。しかし、最近は時代の流れが早く、計画を作ってもなかなかそのとおりに進まない、ということが多くなっています。
- ・ そこで私は、こと細かな分厚い計画ではなく、10年後にこういう姿になりたいというビジョンを示したいと考えています。県民のみなさんにも気軽に見てもらえて、理解してもらえるような、そして力を貸してもらえようなビジョンを作りたいと思っています。
- ・ また、これまでではそういった計画づくりとなりますと、外部のシンクタンクに委託することが普通でした。そうなりますと、どうしても多額のお金がかかりますし、しかも紋切り型の計画になってしまうことが多くなります。そこで私は、県民の皆様と一緒に、職員の手作りでビジョンを作りたいと思っています。
- ・ このタウンミーティングも、県民の皆様の意見を聞く貴重な場であり、その意見をビジョンに反映させていきたいと考えています。タウンミーティングは県南、気仙沼、大崎の3カ所で開催しますが、私が参加するのはスケジュールの関係でここ県南だけです。県民の皆様のお声を是非聞かせて頂ければと思います。
- ・ まず、私がどのような考えを持っているか、何を考えているか、大まかな方向性をお話したいと思います。
- ・ 宮城県を取り巻く状況で最も大きな変化は、人口が減少していること、少子高齢化が進行していることです。
- ・ 宮城県の合計特殊出生率は、1.19となっており、これは全国平均の1.25を下回っています。非常に簡単に申しますと、5人の女性が6人の子どもを産む、という計算になります。もちろん女性だけでは子供を産めませんので、男女合計10人の大人が6人の子どもを産む、ということになります。つまり、20年くらいの期間で見ますと、子どもを産む大人の数に6割減ってしまう、という計算になります。それに加えて、医療の進歩などにより、心臓病やガンでなくなる人の数が減り、平均寿命が延びていますので、人口は減少しながらより高齢化が進む、ということになってくるわけです。
- ・ 我々の試算では、平成17年に236万人の人口が平成28年には232万人になる、つまり人口が4万人減少すると見込んでいます。それに合わせて、高齢化が進むとともに、生産年齢が減少すると思われます。大河原町や柴田町は今のところ人口が増えていますが、これ

から先はこういった傾向になっていくと予想されます。

- ・ もう一つ、県や市町村を取り巻く大きな変化として、地方分権の進展があげられます。いわゆる三位一体改革が進み、地方への権限や税源の移譲が行われたわけですが、これまでは国の財政再建が優先され、県や市町村は財政的に一層厳しい状況に置かれてしまいました。また、市町村合併なども進んでいますし、これはまだどうなるかは分かりませんが道州制の議論なども行われており、今までと同じような考え方では変化に対応できないという状況になっています。
- ・ 私は、昨年の知事選で県内全ての市町村を回りましたが、どこの市町村でも「宮城を元気にしてほしい」という声を多数聞きました。ここ10年間くらいの宮城県の県内総生産（GDP）を見ますと、ずっと8兆5千億円位を行ったり来たりしているような状況です。どこかの産業やどこかの地域の景気が良ければどこかが悪い、というようなパイの食い合いのような状況になっています。
- ・ 現在は格差社会というものが問題になっています。私は、頑張った人が他の人よりもお金を儲ける、ということ自体は、資本主義社会では当然のことだと思えます。貧富の差を完全になくすということは不可能だと思っています。しかし、全体のパイが大きくなれば、一部の人以上だけでなく、みんなの豊かさが上昇するのではないかと考えています。
- ・ 私は、知事になる前は県議でして、その前は松下政経塾にいました。その創始者である松下幸之助さんは、塾生によく「PHP」ということを申していました。最初のPはピース、つまり平和でして、Hはハピネス、つまり幸福です。そして最後のPはプロスパリティ、つまり繁栄です。PHPとは、「繁栄を通じて平和と幸福を」という意味です。私は、この思想を宮城県で具現化したいと考えています。
- ・ 私はよく「富県みやぎ」という言葉を使っています。宮城県で富を創出したい、という意味で使っているのですが、決してお金持ちを多く創り出すことが目的ではありません。経済万能主義、お金を儲ければそれで全てよし、ということではありません。富を創出し、そしてその富で福祉とか教育とか社会基盤整備とか教育とかを充実させていきたい、と考えているのです。
- ・ これまで、みやぎの将来ビジョンについて、若手・中堅職員で構成されるワーキンググループによる検討などを始めとして、全庁を上げて検討してきました。また、公募県民のみなさまによる県民会議での議論も行いました。それらの検討の結果を取りまとめたものが、本日みなさんにお配りした骨子案です。この骨子案は、まだまだ富県戦略を具体的に述べたものではありません。今後、こういったタウンミーティングなどを通じて県民の皆様の意見を頂戴し、具体的な数値目標なども掲げていきたいと考えています。
- ・ さて、富県戦略の推進に当たっては、一次産業から三次産業まで、全産業で富を生み出す仕組みを作っていくと考えています。ビジョンで述べるような10年後の姿を見据えながら、今すぐ取り組めることを実施していきたいと思っています。
- ・ まずは、自動車産業の振興を目指します。岩手県の北上に自動車工場が立地しており、生産規模を15万台規模から25万台から30万台規模に拡大しようとしています。現在、この工場の部品の現地調達率は40%程度ですが、これが50%程度にまで上昇すれば、5000億円の経済効果があると試算されます。自動車産業は非常に裾野が広い産業ですので、県内企業のPRなどに積極的に取り組み、自動車産業が本県に根付くようにしていきたいと考えています。

- ・ また、観光産業の振興にも積極的に取り組んでいきたいと考えています。2008年には、JR各社と共同したデスティネーション・キャンペーンというものも実施しますので、民間企業や市町村とも連携しながら是非成功させたいと考えています。これにより7000億円ほどの経済効果があると試算しています。県民上げて観光客をもてなし、「是非また来たい」と思えるような県にしていきたいと考えていますので、皆様にも御協力をお願いしたいと思います。
- ・ さらに、本県産業の海外展開についても積極的に取り組んでいきます。青森県のリンゴが中国では1個1000円で売れた、ということを知ったことがあるでしょうか。宮城県は米や果物や魚介類など、優れた食材が非常にたくさんありますが、それを売り込むことに関しては積極的ではなかったのではないのでしょうか。食材を売り込んで儲かるようにする、利益が上がるようにする、そのために国内外に積極的に本県食材を売り込む、ということをやりたいと考えています。中小企業の方々は、国外展開といってもなかなかどうやったらいいかわからない、という方も多いと思いますので、県がそういった方々をサポートしていければ、と考えています。
- ・ こういった3つの柱を短期的に実施しながら、10年先の姿を描き、その実現に向けた取り組みを実施していきたいと思えます。先に申したとおり、今回の骨子案はまずは網羅的に県の取り組みを述べ、そして中間案ではより具体的にメリハリを付けて示したいと考えています。重箱の隅をつつくようなこと細かな計画ではなく、大まかな方向性、ベクトルを示し、こういった宮城を目指している、というものを県民の皆様と共有できればと考えています。みなさんよろしくをお願いします。

3 「(仮称)みやぎの将来ビジョン」骨子説明(宮城県企画部政策課 伊藤課長)
資料により説明

(休憩)

4 意見表明

【《教育》宮城県PTA 連合会顧問(前会長) 勅使瓦正樹様(蔵王町)】

- ・ 県の取り組むべき課題として、4つ提案したい。
一つめは、子どもの学力格差の解消が必要。ここ10年間、宮城県も他県の例に漏れず景気が低迷し、このため各企業はリストラなどにより人件費を抑制した。企業としてはやむを得ない選択だったが、個人の経済基盤に大きな影響を及ぼし、家庭間の経済格差が生じ、それが子どもの学力格差も引き起こした。全国レベルでの学力格差、都市部と郡部での学力格差も問題である。また、義務教育は各市町村の取り組み状況により違いがあり、それも格差を生む要因になっている。
二つめは、全体の学力向上が必要ということ。学力の底上げが必要であり、それがひいてはフリーター、ニート対策にもつながる。宮城県は学力日本一を目指してほしい。
三つ目は、「人」がみやぎブランドとなるような取り組みが必要ということ。富県戦略や自動車産業の振興も確かに必要なことだが、単なる大企業の下請けになってしまうことの無いよう、可能性を秘めた子どもたちを育成することが必要である。

四つ目は、宮城らしい郷土づくり教育の推進が必要ということ。義務教育は市町村に委ねられているが、モデル校以外での実施が進むように、県から市町村に対して働きかけを強めてほしい。

- ・ 次に、県が目指すべき姿として、3つ提案したい。
 - 一つめは、意欲的に職業選択ができるようになっていること。
 - 二つめは、生まれ育った地域に戻って子どもを産み育てることができるようになっていること。
 - 三つ目は、地域の特性を生かした教育・地域づくりが実現していること。
- ・ 最後に、県が取り組むべき方向として、3つ提案したい。
 - 一つめは、塾に通わなくとも学べる環境づくりを進めること。地域学習支援センターの取り組みを進めてほしい。
 - 二つめは、小中学校での学力定着目標を数値化すること。
 - 三つ目は、縦割りではなく「教育」という視点から横割りでの施策展開を行うこと。地域づくりは人づくりであり、教育はあらゆる分野に共通する視点である。
- ・ 最後に、住んでよかったと思えるような地域づくりを是非推進してほしい。

【《農業》宮城県指導農業士 小林郁恵様（川崎町）】

- ・ 川崎町内で計100頭の乳牛、肉用牛を飼育している。幼い頃から両親が酪農に従事する姿を見てきた。
- ・ BSE問題や家畜排泄物処理法、あるいは少子化等による牛乳離れなど、畜産を取り巻く経営環境は厳しい。また、農業従事者は高齢者が多くなってきており、昔から見てきた農村風景もどんどん変わってしまっている。スーパーには輸入食料がたくさん並んでいるが、もしも輸入が止まったら大変なことになる、ということも誰も考えていない。農業は基幹産業のはずであり、もっと真剣に食料のことを考えるべきではないか。
- ・ 宮城の農業・農村のために、いくつか提言をしたい。
 - 一つめは女性が元気にならなければならない、ということ。女性は、母として育児をしながら夫には妻として、そして仕事をするときは農業者としてそれぞれ働いている。女性が元気にならないと家は暗くて元気にならない。私も、10年前に農業士として認定されたことが大きなきっかけとなり、研修したり視察にいたり色々経験をさせてもらった。一部には「女性なのに」という声もあったと思うが、色々な場所で元気をもらって目には見えない財産をたくさん持てたと思う。
 - 二つめは、高齢者が元気にならなければならない、ということ。私が住む地域でも、おじいさんやおばあさんばかりが畑で働いて食べきれないくらいの野菜を作っているのだが、その方々が作る野菜を学校給食として活用できないのだろうか。市町村の予算や給食のコストの関係もあると思うが、子どもが地元の野菜を食べて元気になり、その姿を見て高齢者も一層元気になる、という好循環を生むと思う。
 - 三つ目は、米飯給食を充実してほしいということ。今は町ごとの対応がまちまちだが、せっかく米どころの宮城県で育った子ともたちなので、地元のおいしい米を食べる機会を増やしてほしい。

【《まちづくり》荒町商店街振興組合副理事長 出雲洋一様（仙台市）】

- ・ 全県的に見ると、石巻や大崎など、地元商店街が疲弊しているところが多い。私が店を構える荒町商店街も、大型店舗の影響などに晒されている。
- ・ 荒町商店街では、商店街活性化のために色々な仕掛けを行ってきた。仙台フィルハーモニーを呼び、屋外で20年にわたり「星空コンサート」を開いたり、志波姫の農業者と共同で取れたての野菜を直売したり、同じく志波姫の古代米を使って「古代酒」を作ったり、あるいはローカルヒーローとして全国的にも有名になった「アラマチマン」というキャラクターを作ったりなどしてきた。このほかにも、伝統文化の継承活動や地域の安全確保活動などにも取り組み、なんとか地元を盛り上げようとしているところである。
- ・ それでも、郊外の大型店舗の影響などは大きく、後継者の減少が顕著になってきている。つい最近も、店は開いたままだが後継者が会社に働きに出るようになった店、いってみれば兼業商店になったところがあり、消防団活動などの地域活動に参加できなくなってしまった人もいる。経済的に成長することも大事だが、持続可能な社会、永続できる宮城県を目指してほしい。
- ・ もう一つ、私は48歳なのだが、小学6年生を筆頭に5人の子どもがいる。少子化が叫ばれて久しく、確かに子どもを育てるには手間も金もかかるが、子どもを育てることは何物にも代えられない喜びがある。
- ・ 実際に子育てに従事して感じたのは、父親の子育てが足りない、ということ。現在私は、特定非営利活動法人せんだいファミリーサポート・ネットワークの代表理事を務めており、仙台市の指定管理者として「のびすく仙台」の運営も行っているが、毎日200～300人の利用者がいて非常にやりがいがある。ただ、行政側に言いたいのは、指定管理者制度によりコストをカットすることばかりに目を向けないでほしい、ということ。指定管理者制度により、手間は以前よりかかるようになる、という点を分かってほしい。
- ・ 地域づくりは人づくり、子育てと同じだと思う。地域で生まれ、地域で看取られるのが理想。夢を見ることができるような地域を目指してほしい。

【《水産》塩釜蒲鉾商工業協同組合理事 水野暢大様（塩釜市）】

- ・ 1937年操業の水産加工会社を経営している。宮城県は、水産加工品が全国2位、かまぼこの生産は全国1位と、全国的に見ても水産加工業が盛ん。かまぼこをはじめとした練り物の消費量も多い。
- ・ 「Made in Japan」が激減している、これからは、世界に通用するような地域特性を持たないと、その地域はダメになっていくと思う。特にこれからはアジアの時代であり、これまでのような大量生産だけではダメになっていく。
- ・ 私が着目しているのは、ヨーロッパ型の「量より質」の傾向。大企業が安く大量生産するのではなく、小さい企業がクオリティの高い少数の物を生産してリッチな人たちに販売していく、というふうになっていくと思う。
- ・ 日本国内を見ても、マイスターの養成など、量より質に転換しようとする企業が多く見られる。弊社も、原材料を厳選し商品の質を向上するように努めており、世界に通用する物を生産しようと考えている。
- ・ 中国の富裕層は、地元の上海ガニなどは食べず、むしろ三陸の牡蠣やアワビなどを食べている。その影響で海外の水産資源が高騰している。農産物も、今後はコスト高の影響により輸入が減っていき、国際需要が高まっていくと思われる。

- ・ 宮城県は、道路、港湾、空港などの流通基盤に非常に恵まれている。そして食材や生産物などの質も非常に高い。今後、国際的な経済都市になる可能性を秘めていると思う。

【意見表明を受けての知事コメント】

- ・ いずれの意見も非常に的を射たものであり、ビジョンに盛り込んでいきたいと思います。
- ・ 勅使瓦さんの教育に関する意見には、非常に共鳴するところです。私も民間企業などを回る機会が多いのですが、どんな大企業の方もやはり「最後は人づくり」ということをおっしゃります。最後はそこに行き着くのだと思いますので、しっかり取り組んでいきたいと思えます。
- ・ また、小林さんは「女性や高齢者が元気にならないと地域は元気にならない」とおっしゃっていましたが、働く女性が多い地域ほど出生率も高い、という統計データもありまして、小林さんの御意見は統計的にも裏付けられているものだと思います。
- ・ 出雲さんの荒町の色々な商店街活性化策にもうなずくところが多く、御自分の商店のことだけでなく地域の商店街全体のことを考えて様々な活動を行っている成果が出ているのだろうと感じました。私も古代米を使ったお酒を飲んでみたくなりました。持続可能な社会を構築してほしいとのことですが、私が申したPHPの思想も最後の目標はそこにあるのだと思えます。
- ・ 水野さんは最前線で本県水産業を支えて下さっている方であり、本県産業の中核を担って頂いていると思います。特に、海外に目を向けた新しい視点は私の考えに近いものがあると思えますし、一次産業だけでなく二次、三次産業の振興にも通じる考え方だと思いました。

5 会場との意見交換

参加者から提出された意見記入表のうち、代表的な意見を司会から紹介。

- ・ （柴田町 37歳 女性 ビジョン全体について）財政状況もあり、最重点・重点と順位を付けて明示すべきではないか。また、具体的な数値目標を示すべきではないか。

【知事コメント】今回お示した骨子案は、御覧頂くとお分かりのとおり、まずは広く浅く県全体の課題や取り組む方向を述べています。今後、御意見の通り、重点化すべき取組や目標を述べて、メリハリのついたビジョンを作っていきたいと考えています。

- ・ （名取市 46歳 男性 産業分野について）中心市街地の空洞化が続き、地域商店の衰退が進んでいる。意欲ある個店を、集中的かつ継続的に支援し、活性化の成功事例を創出するような施策を検討して欲しい。

【知事コメント】中心市街地の問題は、宮城県だけに限らない、非常に大きな問題となっています。御指摘のとおりしっかりと取り組んでいかなければならないと考えています。

- ・ （柴田町 58歳 女性 保健福祉について）少子化問題について、育児休暇など、一般の会社では取れないところが多いのが問題。全ての女性が取れるようにして欲しい。

【知事コメント】先の小林さんの意見表明にもありましたが、女性の社会参加は地域を元気にしていく上で非常に大きな課題であると認識しています。育児が終わったあとの女性も働きやすい環境を創出していくことが必要だと思っています。

- ・（名取市 30歳 男性 保健福祉について）経済優先だけでなく、行政の役割、安心の保障を前提として欲しい。そうしないと、経済が悪いときには、福祉が切り捨てられることになりかねない。
【知事コメント】私が述べている富県戦略とは、経済至上主義、儲ければそれでいい、というものでは決してありません。まさに御意見の通り、きちんとした福祉施策をしっかりと実施していくために必要な経済基盤を確立しようとするものですので、その点は是非御理解頂きたいと思います。
- ・（岩沼市 62歳 女性 男女共同参画社会について）女性の意見を無視しないで、男性と同様に対等に扱って欲しい。
【知事コメント】宮城県には、男女共同参画のための条例や基本計画もあります。庁内における女性の登用、あるいは県の附属機関における女性委員の登用なども着実に進めているところですので、引き続き男女共同参画のための取り組みを進めていきたいと考えています。
- ・（大河原町 61歳 男性 防災について）近々想定される地震をはじめ、危機感の徹底を図って欲しい。
【知事コメント】今まで述べた全ての取り組みの大前提は、県民の生命と安全を守ることだと考えています。私は以前自衛官をしておりまして、御意見のような災害対策の充実については最も気を配っていきたくて考えています。

6 閉会